

「県民と県議会との意見交換会」 岩手県立農業大学校 の概要

〔日 時〕 令和7年11月14日（金）13：00～15：00

〔場 所〕 岩手県立農業大学校 会議室

〔テーマ〕 「これからの農業にかける思いについて」

〔参加者〕 （5名）

西 野 颯（農産園芸学科農産経営科2年）

大 村 は る（農産園芸学科花き経営科2年）

阿 部 誠 也（畜産学科酪農経営科2年）

井 上 爽 和（畜産学科肉畜経営科2年）

瀬 川 徳 将（畜産学科肉畜経営科2年）

〔出席議員〕（9名）

松本雄士議員（座長）、高橋穩至議員、菅原亮太議員、高橋はじめ議員、
郷右近浩議員、佐藤ケイ子議員、吉田敬子議員、田中辰也議員、飯澤匡議員

〔オブザーバー議員〕（2名）

菅野ひろのり議員、千葉秀幸議員

◆ 参加者の自己紹介及び現在学んでいること等について

○西野さん

現在は一戸町在住。岩手町の祖父母と一緒に住んでいた中学生のときに農業の楽しさを知った。農業大学校で学びたいと思い、進学し、現在は水稻を中心に学んでいる。卒業研究では鶏糞を活用した作業の継続化と環境負荷軽減の試験に取り組みながら、専門的な知識と確かな技術を身につけたいと考えている。

○大村さん

雫石町出身。花にかかわる仕事がしたいと考え、進学した。花の流通の仕事に興味があり、卒業後は仙台市の市場に就職する予定である。

現在、シクラメンの栽培をテーマに卒業研究に取り組んでいる。出荷まで手間のかかる作物であり、初めは大変であったが、水の管理や温度の調整などがうまくいくたびに成果を感じ、花が咲いてくれたときには達成感がある。

○阿部さん

宮城県気仙沼市出身。入学したきっかけは、幼いころから動物が好きで、幼稚園のときから地元の観光牧場に通ううちに、酪農、乳牛について興味を持つようになった。将来的に地元に戻り、6次産業化に取り組みながら、酪農経営をやりたい。現在は家畜人工授精師の勉強と飛鳥時代から平安時代につくられたであろう乳製品を卒業研究として取り組んでいる。

○井上さん

盛岡市出身。動物が好きで祖父母の知り合いの酪農家に通う中で畜産に興味を持った。農業高校に進学、勉強する中でさらに学びを深めたいと思い、進学した。卒業後は、釜石飼料株式会社で飼料の成分分析の仕事につく予定である。

子牛の下痢予防、改善をテーマに卒業研究に取り組んでいる。子牛に与えるミルクに炭を混ぜ

ることによる、整腸作用を利用した下痢の軽減や、臭気の吸着作用を利用して堆肥化した際の臭いの軽減を目指している。また、家畜人工授精師の資格取得にも取り組んでいる。

○瀬川さん

花巻市出身。実家で農業をやっていたことが入学のきっかけである。黒毛和牛と水稻をやっている、将来的に継いでいきたいと思っている。そのために、牛の飼養管理技術や農業をしていくための資格取得をしたい。将来はすぐ就農するのではなく、農業機械に興味があるので農業機械メーカーに就職したのちに就農を目指したいと考えている。現在は、家畜人工授精師の資格を取得するための勉強や、牛がどのような症状のときにどのような薬を与えたらいいかなどの牛の生態の勉強をしている。また、卒業研究は我が家の課題でもあるが、子牛の腹づくりについて、牛の胃をしっかりとつくるための餌、どういった餌をどういったタイミングで与えればどういう違いが出て、しっかりした胃や腸をつくれるのかということの研究をしている。

◆ 意見交換

○佐藤ケイ子議員

学校の施設について、冷暖房の不十分さ、校舎の老朽化が深刻であると議会でも話題になっているが、実際に困っている点などを率直にお教えいただきたい。

〔回答：阿部さん〕

男子寮について、今年度に入ってからボイラーがたびたび不調を起こしている。最近は熱湯しか出ないとか、いくつかあるシャワーのうち、一つを使うと他のシャワーが使えない状況にあり、生活に支障を来している。

〔回答：井上さん〕

女子寮から本校舎までの渡り廊下の仕切りがプラスチック製で貧弱なつくりのため、虫や枯葉、カナヘビ、雨風が入って来る。暑さ、寒さも辛い。

〔回答：西野さん〕

トイレのセンサーも壊れていて、ずっと水が流れている状態。直しても何度も繰り返すような状態だ。

○高橋はじめ議員

男子寮は一人部屋だが、女子寮は二人部屋となっている。女性から一人部屋にしてほしいという声はなかったが、その辺はいかがか。

〔回答：井上さん〕

私たちの代は人数が少なかったため、二人部屋を一人で使用しており、不便は感じていない。

〔回答：瀬川さん〕

ことしから男子寮、女子寮共にエアコンが設置されたので、快適に過ごさせていただいている。冬は暖房があるので大丈夫だが、夏は1年生と2年生の教室は扇風機で乗り切っている。近年の異常な暑さを考えるとエアコン設置を考えてもいいのかなと思う。

○高橋穂至議員

瀬川さんは機械に興味があるということで一旦機械メーカーに就職するということだが、いず

れ地元で農業をやりたいと思っているのか。また、西野さんは水稲を地元でやりたいと思っているのか、将来の展望をそれぞれお聞かせ願いたい。

〔回答：瀬川さん〕

自分は将来的に花巻市での就農を考えている。実家では、黒毛和牛が10頭、水稲は借用地を含めて10町歩から13町歩、牧草が3町歩、WCS（ホールクロープサイレージ）用に3町歩ほど。

これから少しずつ規模を拡大していけたらと思うが、今流行りの設備や、乾田直播栽培などの手法を活用した水稲栽培により、少ない人数でどれくらい効率よく広い面積で生産できるかがテーマになると考えている。

今は和牛を勉強しているが、米もやっていきたい。花巻市は平坦な土地が多い。人が少なくなると株式会社西部開発農産などに流れていくと思うが、委託された田んぼや、無理だと言われた田んぼを合筆すれば、草刈りなどもっと効率よくなるのではないかと思う。

牧草も平坦な土地が有利だと思う。久慈市の短角牛飼育は山に放牧しているが、花巻市は逆に平たい土地を活用して畜産事業にも使っていけるのではないかと思っている。

○高橋穂至議員

実家での農業は個人か、複数でやっているのか。

〔回答：瀬川さん〕

家族経営である。

〔回答：西野さん〕

将来は株式会社純情米いわてに就職し、お米の品質などを学んだ後に岩手町の祖父母の農業を継ぎたいと考えている。祖父母の田んぼは4町歩程度、休耕しているところも含めて3ヘクタールで園芸生産をしている。周りに若者がいないため、農業をやめている方々が多いので、そういうところも請け負ってあげたいと考えている。

農業の担い手として、岩手県は面積が広大であり、そのメリットを生かして、生産が楽になる作付ができればと思う。また、栽培面では環境負荷低減の取り組みができればいいと考えている。

○高橋穂至議員

家族経営でそれだけやっているのはすごいと思うし、大変だろうなと思いながら伺った。皆さんのお父さん世代だと、まだ高齢化の前だと思う。将来、自分自身も歳をとっていったとき、家族経営の規模でやるには厳しいと思う。仲間がいて法人化するなどに広げるため、さまざまな知識を得て、リーダーを目指して取り組んでいただきたい。農業は食べることなので、決してなくなることはない。うまく広げていただけたらいいと思う。家族経営では誰かが病気などで倒れたら大変である。大きければいいというわけではないが、やはりある程度何人かの人数でやれたらと思う。

○菅原亮太議員

岩手県立農業大学校を選んだ理由をお伺いしたい。他県出身の方もいるが、他県にも農業大学校がある中で岩手県にした理由を率直に教えていただきたい。

〔回答：阿部さん〕

宮城県にも農業大学校はあり乳加工や衛生的な生乳生産などを学ぶことはできるが、自分は生乳を使った製品づくりにも興味があったこと、将来はジェラート生産などの6次産業化もやってみたいと考えており、その材料となる高品質な生乳生産をここで学びたいと思い、岩手県立農業大学校を選んだ。

〔回答：西野さん〕

農業高校出身だが、高校では栽培の基礎知識しか学べていないと思った。農業大学校では卒業研究で最低一人1枚から2枚の水田が割り振られ、一から研究するので、農業大学校で学びたいと思い入学した。

〔回答：大村さん〕

普通高校出身で農業の勉強をしたことはなかったが、花が好きで、将来は花にかかわる仕事がしたくて、教師に相談したところ、勧めもありここへ進学した。

市場への就職は決まっているが、農大ではフラワーデザインの資格も取れるので、それを目的に入学した。

〔回答：井上さん〕

祖父母の親戚が酪農家だったがやめてしまった。自分は動物が好きで、親戚がやっていた酪農を知りたいと思い、乳牛を主体としてやっている盛岡農業高校に入った。一年生のときに乳牛、二年生で豚と羊と鶏を学んだ。机で勉強するよりも実践的に動いてやることのほうが性に合っている。帯広畜産大学も勧められたが、先生から農業大学校の方が実践的に学べるし、たくさん先輩も行っているからいいのではないかと勧められた。オープンキャンパスにも行かず、ぎりぎり決めてきたが入学してよかった。

〔回答：瀬川さん〕

農業の仕事には興味があり、将来つこうと思い農業高校に入学したが、その後の進路を考えたときに、高校でも溶接などの資格は取ったが、より実践的な牽引、機械操作、牛を扱う上での人工授精などの技術を習得して将来に生かしたかったのが理由の一つ。

また、岩手県内にいる牛を見て学びたいと思ったのがもう一つ。実家は県央地域で、鳥取由来の牛が多いが、県南地域は田尻由来の牛がいて、系統は違うが岩手県らしい牛を見て技術を学びたいと思ったのでここを選んだ。

○菅原亮太議員

阿部さんと西野さんは自分で農業大学校を調べたのか。先生から勧められたのか。

〔回答：西野さん〕

高校の担任の先生に勧められた。

〔回答：阿部さん〕

自分は酪農を希望していたが、高校では肉牛しかやらなかった。進学を希望していることを高校の先生に伝えたところ、農業大学校を教えられ、自分でもオープンキャンパスに何度か行った。校長先生が先ほどおっしゃったが、農業大学校では教育の三本柱などいろいろあって、自分のためになると思い、自分で選んだ。

○菅原亮太議員

校長先生をはじめ、先生方が全国をまわられて農業大学校のPRをされていることが功を奏していると思った。敬意を表したい。

実家の農業を継ぎたいとおっしゃっている方が多かったが、実家の家族から農業を継いでほしいと言われたことがあるか。

〔回答：西野さん〕

両親は別の仕事をしているので、祖父母からは継いでもらってありがたいと言われた。地域の方々にも頼もしいとの声をいただいている。

〔回答：瀬川さん〕

自分は親から継いでほしいとは言われなかった。自分は小さいころから、じいちゃんの機械に乗せてもらったり、稲刈り、収穫などを見に行ったりしていた。家族経営でワイワイやりながら、堅く考えずにみんなで楽しくやれるのが魅力の仕事だと思っている。小さいころからこういう仕事がやりたいと思っていた。

父は沿岸地域の生まれだが、結婚してこちらに来て、祖父の経営を継いだ。父が経営を継いだきっかけは、自分の家のお米がおいしすぎて衝撃を受け、農業をやりたいと思ったことだそうだが、自分はいきっかけだと思っている。そういう大事な思い、実家の米もおいしいし、昨今の米問題もあり、やはり生産していくのが大事だと思っているので農業をやっていききたいと思っている。

○菅原亮太議員

農業は本当に誇りある職業だと思う。将来に向けての決意と農業の魅力、農業への誇りを聞いて、本当にうれしく、岩手県の農業は明るいと思った。引き続き頑張ってください。

○郷右近浩議員

学校に入ったきっかけは先生の紹介などさまざまだが、皆さん、農業に対しての自分自身の考えを持って農業大学校に入られたと伺った。資格取得など自分がやりたいことをしっかり突き詰めて進めていくという中で、2年間の与えられたカリキュラムで、もう少しこういうことをやってもらったらいいとか、農業機械も日進月歩の状況であることから、もう少し踏み込んでやりたいなど、カリキュラムについて思うところがあれば教えていただきたい。

〔回答：西野さん〕

県では、いわて農業生産強化ビジョンの取り組みが進められていて、その話し合いにも参加させていただいたが、それに近い話があった。1年目で農業、栽培の基礎を学ぶが、2年目でききなり栽培をやってくださいと言われる。まだわからないことがある中で、水管理や薬剤散布など、いきなりの実践は難しいと感じた。3年目もあれば、去年の栽培の振り返りをして改善などがよりできる。制度の構造上厳しいとも聞いたが、卒業研究も長期的なものもあり、自分もそうだが、学びたい人も一定数はいると思うので、あればいいと思う。

〔回答：大村さん〕

入学前まで農業のかかわりや知識がない人にとっては、専門的な部分で農業高校出身者との差が気になった。もっと基礎的なところをゆっくり学べる場所もあるとよい。

授業も生産主体であるので、フラワーデザインなど、生産の先のことももっと学べるとよいと思うし、そうすると、そちらの分野に興味のある学生が集まってくると思う。

〔回答：阿部さん〕

2人と同じように、ゆっくり学びたい。3年目があるとうれしいと思っていて、その理由は将来6次産業化をしたい。乳加工や肉の加工を学べてはいるが、2、3日で終わりというのが現状である。3年目があれば乳加工も専門的に深掘りができるので、興味を持つ方がもっと入るのではないかと思う。カリキュラムとは関係ないが、近年、熊の出没が多い。狩猟免許を取っている若い人が少ないと思うので、農業大学校において学科にかかわらず、取得を推進していただければと思う。人工授精師や家畜体内受精卵移植師の資格にプラスして狩猟免許取得のサポートがあるとうれしい。

〔回答：井上さん〕

もっと長く学びたい、というのが率直な思い。

卒業研究が子牛に関する事で、哺乳期間にある子牛が研究の対象である。

生まれた頭数そのものが少ない、または生まれた時期の関係で研究対象にできる子牛が少ない年だと、離乳してから出荷されるまでの期間を在学中に十分に調べることができないこともあるので、もう1年あればもっと多くの子牛で研究するチャンスがふえるのに、という思いがある。盛岡農業高校の専攻科のようなものがあってもよい。

高校では豚を研究していたが、インターンシップ先でも農業高校で豚をやっていた人が多く、他は年配者で、私のような農業大学校や専修学校を卒業したばかりの年代は少ない。農業大学校で豚を扱ってもよいのではないか、豚に限らず、鶏も扱うなど、さまざまな家畜を扱う選択肢がもっとあってもよいのではないかと思う。

〔回答：瀬川さん〕

今までの方と近いところがある。2年でさまざまな知識や技術を教えていただくのは時間的に厳しいと感じている。先ほど申し上げたとおり、自分の家での経験があるからわかるが、普通科からそのまま入るとわからないだろうなと思うことが多くある。基礎的、表面的な勉強が多く、例えば、牛にはこういう飼料を与えている。では、この飼料をどう活用すればよいのか、なぜこの飼料を与えているのか。自分の家ではなぜこの飼料を与えているかを教えてもらえるが、学校では牧草の種類や飼料の種類はこうだということだけで、深掘りはしていない。畜産では飼料管理や2週間に1回、牛の体重測定をするが、実習では同じことを繰り返し学ぶイメージである。自分の家の手伝いで機械の操作がこうだということはわかっている。学校では実践的に機械を扱ってはいるが、基本的な流れだけである。実際に一つ上の先輩で非農家だが、牛を飼い始めた方がいる。牛のだいたいの知識はあるが、機械をどう扱って育てればいいのかわからないと言っていた。深掘りした授業があればいいのかなと思う。

もう一つ、アルバイト先の農場の社長と話したことだが、農業大学校のカリキュラムをできれば5年制にして、技術面も大事だが、経営に強い人をつくりたいという話をしていて。実家で就農して自分で経営していく力が必要だが、自分は経営がわからない。授業で簿記を軽くは触れるが、わからないことが本当に多く、このまますぐ就農して経営するのは無理だと思うので、経営面も勉強できたらいいと思う。

○郷右近浩議員

私も農業大学校のあり方を考える中で、専攻科の設置や高等専門学校にできないか、などと思

っていた。

自分は社会に出て、和菓子職人の修業を4年間やったが足りないと思っていて、まして皆さんは収穫が年に1回の作物や成長に時間を要する家畜を扱う勉強なので2年は短いと思う。

これからの農業大学のあり方を考える参考になればと思った。県もいただいた御意見も踏まえて農業を支えていってほしいと思った。

○吉田敬子議員

農業大学校の特徴的な教育の一つに、国内外の先進農業を学ぶとあるが、県外や海外での研修を経て、技術など岩手県でもやれたらいいなと思ったことがあれば教えていただきたい。また、岩手県内での研修を経て、目指したい経営、目指したい人がいたら、お話しいただきたい。特徴的な農作物について、他県では力を入れているが、岩手県では足りない。頑張っているがまだまだだとか。県議会ではよく言っているが、皆さんの目線で、いろいろなところを見て学習されてきて、いいなと思ったことなどをお話しいただきたい。

【回答：西野さん】

海外研修の魅力は感じるが、大規模、大きな機械といったイメージがあるため、自分は応募しなかった。岩手県での農業は区画が小さいため、直結しにくいのではないかと感じたこと、また、物価高で行きにくいと感じた。ことしは9名しか応募しなかったため、人数が少ないことからなくなった。自分が行かなかった理由はそういったことだが、他に経済的支援があれば海外研修に行く人がふえるかと思う。目指したい経営については、近所で親しくしている方がいる。広くお米の栽培をしている方なので就農した際にはその方のもとで学びたいと思っている。

【回答：阿部さん】

海外研修について、大規模農家のもとに行き、実習などを通じて知識、技術を習得するイメージを持っていたが、去年の先輩の報告をみると、行って見て来ただけで、掘り下げた内容ではなく、希望する成果が見込まれないと感じ、応募しなかった。

自分はこちらで就職、仕事をしてから地元に戻るつもりである。

また、遠野市にある夢産直かみごうでは、酪農をしながらブラウンスイスを原料にしたジェラート販売、産直運営を行っている方がおり、将来は自分もそのような経営をして地域とつながりを持っていきたいと思っている。

【回答：大村さん】

市場に就職すると言ったが、先日、大阪府にある鶴見花き卸売市場の見学に行った。市場の中には季節の花の展示コーナーがあったが、そういったものを岩手県、東北地方の市場でも設けたらどうかと思った。例えば、リンドウは仏花のイメージが強いが、それを払拭するためにもブライダル向けのアレンジや、日常のインテリアに使えるような小さいブーケみたいなものを展示して、特別な日のための仏花だけではなく、日常使いの提案もすれば消費の拡大につながるのではないかと考えた。

【回答：井上さん】

友人の祖父がJAに勤務していて、その同期の息子さんが水稻を教えてほしいということで、友人の祖父母の家に通っていると聞いた。そういった横のつながりとか、教えてくれる人がいる、そのような人を紹介してくれることが、農業をやろう、となるきっかけになるのではない

かと思った。

自分も祖父母が農業に携わっていたから農業にかかわる仕事につきたいと思っているし、祖父母のところに通っている人も、祖父と父との農業の会話を傍らで聞いている中で、農業をやりたい、と思ったようだ。祖父が亡くなって使わなくなった機械をよかったら使ってもいいよ、という話にもなっている。

人と人とのつながりも農業を始めるきっかけとして大切ではないか、つながりをつくることも農業をやりたい人をふやすことになるのではないかと思った。

〔回答：瀬川さん〕

岩手県内で目指したいと思う方は、1年生のときの農家派遣先で行った盛岡市の方である。その方の経営は、自分の家の経営をすごく大きくした感じで、水稻と黒毛和牛の繁殖に加えて肥育の一環を行っているところだったが、その方自身は一から農業を始めた。牛舎はその方のお父さんが大工だったので工夫してつくった牛舎で、そういった工夫を重ねて、すごく大きな経営体に成長していると感じて、目指したいと思った。

○吉田敬子議員

岩手県内に目指す農家、姿があるといいなと思ってお聞きした。皆さんにとって、目指す農業があると、ないとは違ってくると思う。カリキュラムの中でそういったところを見せていけるかということが大事だと思っている。海外研修のことを伺ったのは、国、政策によって目指す農業は違っていても、皆さんの世代のときに世界を見る力をつけて、地元で頑張ってもらいたいという個人的な思いがあった。農業大学の海外研修のカリキュラムが観光にならないような、じっくりとやれるような仕組みになればいいと思う。また、50万円程度要する経費ももう少し何とかできるようなになればと思う。

○田中辰也議員

2年間学んだ中での気づきがあったのではないかと思う。ここで学んだ2年間で、岩手県の農業や農産物について、こういう可能性がある、こういう魅力があると感じたこと。また、そういったものをつくって経営していかなければならない。いいものをつくるだけでなく、所得にかえていかなければならない。岩手県の農業をこう磨いていけばいいなど、気づいたことがあればお話ししたい。なければ、こういった課題があるなどを教えていただきたい。

〔回答：西野さん〕

岩手県の農業の魅力は、おいしい農産物があることなどが挙げられる。米や花のオリジナルブランドも多くありよいと思うが、もっと県外に魅力をPR、発信してはどうかと思っている。これほどおいしいものが県内でとどまっているのはもったいない。

〔回答：大村さん〕

岩手県の農産物の可能性だと思うのは、岩手県の花といえば、リンドウがまず先に出てくるが、リンドウの青い色を生かして、ヨーロッパへの輸出を成功させたということを授業で習った。サムシングブルーとして出荷していて、ブランドを確立したという話を聞き、岩手県のリンドウをもっと世界に広められるのではないかと思った。また、海外だけではなく、国内でも青い花の需要はあると思うので、もっと全国、世界に広められないかなと思った。

〔回答：阿部さん〕

話題からそれるかもしれないが、岩手県の牛乳について、乳質改善大賞の受賞者が地域の担い手とノウハウを共有するなど、地域でよいものをつくる人をふやすことが必要だと思う。

また、自分で飼っている牛の乳を飲んだことがない酪農家もいると聞いたことがあるので、牛から乳を搾って終わりではなく、実際に自分も飲んでみる、地元にも飲んでもらい、自分たちが、身近にあるものの魅力に目を向けるような取り組みが必要ではないかと思う。

〔回答：井上さん〕

岩手県には牛や豚、鶏もさまざまなブランドがあるのに、それを全部知ったのが高校生のときだった。食育などで、小さいころから教えてもらえれば、同じ豚肉だけど違いがわかるきっかけができるのではないかと思う。米も花も牛乳も同じ見た目でもどこが違うのか。播種や餌の違いによって、乳脂肪率がどれだけ異なるとか。小さいころからのきっかけで岩手県の農業の魅力を知るきっかけになるのではないか。岩手県の魅力を知っていれば、県外に出たときに岩手県の農業の魅力を話すことができる。岩手県の広大な敷地、さまざまな気候があるからこそ、一つの県でいろいろな品目をつくれるのが強み、魅力だと思う。

〔回答：瀬川さん〕

県北地域では、短角種の飼育や標高が高いところでのキャベツの栽培が盛んで、県南地域ではリンゴ、ブドウなどの果樹栽培が盛んである。

紫波地区ではブドウかすを与えて育てたブランド牛があり、それぞれの地区で切磋琢磨し、よりよい農業を目指そうとするところ、例えば、花巻らしい牛を花巻和牛としてつくろうとの話も出てきている模様であり、こういう取り組み姿勢も魅力だと思っている。

○田中辰也議員

皆さんからそれぞれお話をいただいた。なぜ聞いたかという、自分のつくったものを買っていただくという立場になったときに、私のつくったものはこうだよということがあって、しっかりやっていくことが大事だと思う。課題意識を持ちながら、2年間取り組まれたお話を聞いた。皆さん、可能性があると感じた。今後、就農してからいろいろと苦労をすることもあるかと思うが、ここで取り組んだことをもととして頑張っていたきたい。

○高橋はじめ議員

私は農業高校を卒業するとき、農畜連携の卒論をつくった。ただ、そのために資金が必要だったことから、企業に就職し、そのまま農畜連携の農業ができず、今日まできた。

皆さんも2年生となり、卒業研究をまとめられている中で、学校の授業での過不足、足りなかった、もう少し学びたかったと思った点があればお伺いしたい。

また、農業は繰り返し同じようなことをやりながら進化していく中で、農家での実習もされているようであるが、実習や作業を通じて、自分の未来の農業の取り組みに生かしていこうと感じたことを教えてほしい。

〔回答：阿部さん〕

先ほどお話した乳加工のほかに、牧草、飼料関係について。飼料作物という授業があるが、牧草の写真や授業内容だけテストして終わりなので、それよりはTMR（混合飼料）やサイレージのつくり方を深掘りして実際にやらせてほしい。生乳も飼料によって味が変わる。そういうところも深掘りして学べたらいい。後輩たちにもよいのではないかと思う。

〔回答：瀬川さん〕

盛岡市の農家に派遣されて行ったものの、同じ作業の繰り返しだったので、2週間の派遣であるが、学びの点からは1週間で十分ではないかと感じた。

手広くやっている農家だったので、もっと幅広く作業に携わってみたいかった。

○高橋はじめ議員

農家派遣のシステムの詳細はわからないが、それぞれ目指すところに向かっての学びが大事だと思う。農家には長年の知識があるから、2年間で学べなかったことを補充していける。派遣先の希望や要望があればお話しいただきたい。

○松本雄士座長

希望や要望はありますか。今なくても、希望があれば校長先生にお話してください。

○佐藤ケイ子議員

農業後継者の問題について、優遇してでも後継者を確保していくべきだと思うが、実態としてそうっていない。

医療関係では奨学金を受けても地元就職すれば返済を免除するとか、産業人材でも同様の取り組みがあるが、農業関係にはないと思っている。

農業大学校には奨学金を受けて入学した人はいるのか、また、医療関係などにある優遇制度のような制度があれば活用するものなのかお聞きしたい。

〔回答：井上さん〕

農業では一度、別のところに就職してから戻って来て後継ぎたいと考えている人もいると思うので、卒業後一定期間、確実に就農するという人については返済を猶予してほしい。例えば、何年以内に戻ってきて就農すれば猶予する、減額するなどの配慮があれば、活用できるかなと思う。卒業後すぐに就農することが条件ならば活用は難しいと思う。

○佐藤ケイ子議員

岩手県内で農業関係の就職をすれば免除されるなど、優遇の範囲が広げられれば良いと思っている。他の産業にはそういった支援があるので、農業にもあれば活用するか。

〔回答：井上さん〕

免除になるのであれば活用すると思う。

○飯澤匡議員

質問はないが、後ろにお集りの人でこの際話したい人の話を聞きたい。

〔回答：畜産学科 及川さん〕

設備の話だが、夜、街灯がないので暗くなると全く見えない。熊が出てきたら本当に危ないので何とかしてほしい。

〔回答：農産園芸学科 伊藤さん〕

自治会で寮長をやっている。ボイラーなど設備を直してほしい。一昨日は北棟でインターネットが使えなくなり、生活に支障が出た。

岩手県の魅力について、議員の皆さんにはもっと岩手県の強みをアピールしてほしい。例えば一関市といえば、餅文化で餅が有名だが、他県や県北地域の人には知られていない。地域ごとの魅力を現地の人から聞いて初めて知る場合がある。

強みを全面に出して、他の人にこれがすごいというのをアピールできたらと思う。例えば、地域の特色を生かして、さまざまな方向へアピールできたら岩手県の発展につながるのではないかと思う。特色を全面に出して岩手県のよさをアピールしてはどうか。

また、海外の研修について、アメリカと日本の農業を比べたときの違いは、アメリカでは広大な土地があり、少ない予算で農地をふやせるのでたくさん栽培できるが、日本は大量生産するにも地形の都合で同じように栽培できない。一人当たりの生産量を稼げないのが課題だと思っている。

事例研究で埼玉県へ行ったとき、小規模で生産して儲けるため、有機栽培やあまり化学肥料を使わない、基準以下で生産したものを売ることによって経営をまわしていた。

日本の強みを生かすのであれば、狭い土地の中での有機栽培、国内産であることを存分にアピールして買ってもらえる人に買ってもらう。アメリカのように稼げないけれども、岩手県で有機栽培により育てたものであるということをアピールして、地域でたくさん栽培したもので売り上げをふやすといった取り組みができればいいと思った。

○飯澤匡議員

御指摘のあったマーケティングや情報発信力について、岩手県はまだまだ足りない。ブランド名がついている有名な魚よりも三陸産のほうがおいしいが、他のところは売り方が上手だ。付加価値をつけて売ることができないという課題などが多いと思う。今日は皆さんのお話を伺い、大変感銘を受けた。また、高度化、経営の問題とか今後の課題として勉強になった。

県は学生を交えて意見を聞くラウンドテーブルのような機会を設けて、学びの中で学生がどういうことをやりたいかというニーズをしっかりとつかんでほしい。子育て支援の先進県である鳥取県に行ってきたが、若者や学生、お母さんや子供の意見を吸い上げるシステムをつくっている。行政が日々動くニーズに追いつけるか、努力をしている。鳥取県は子育て支援でトップランナーである。岩手県は農業県であり、若い意欲のある人達を大事にしていかなければならないというのが私の考えである。これから農業で生き残った人がいいと思っている。自分の好きなことを頑張っていたきたい。

○松本雄士座長

最後にひとことずつ感想をお話しいただきたい。

〔回答：西野さん〕

改めて岩手県の未来の農業について、深く考えること、意見を交わすこと、自分の意見を発信することは大切なことだと感じた。よりよい未来に向かって、皆様にもつなげていってほしいと思った。

〔回答：大村さん〕

ふだん、その日やらなければならないことやレポートに追われ、考えなかったが、このような場をいただき、岩手県の今後の農業について、改めて理解できるようになったので、いい機会になり、また勉強になった。

〔回答：阿部さん〕

県外出身の自分にとっては、このように岩手県の農業について議員の皆さん、学校側と話をしたり聞いたりする機会はなかなかないので、貴重な経験になった。

このような取り組みは岩手県だけでなく隣県、東北地方も巻き込んでいけばよいのではないかと思った。

〔回答：井上さん〕

いろいろな人の意見を聞くことができ、また、質問をいただいて、自分の考えが至っていないことに改めて気づくことができるなど、いい刺激になった。

〔回答：瀬川さん〕

こういった形で議会の方とお話しするのが初めてで緊張したため、一つ一つの答えに言葉が足りなかった、変だったところがあったが、意見交換できたかなと思う。

岩手県の農業を大きくしていく上で、議会の方々や地域の協力、県全体のつながりが大事だと思った。

○松本雄士座長

数多くの貴重な御意見をいただいた。このようなお話を聞くことができたのも、皆さんの頑張りと先生方の御指導の賜物だと思う。皆さんは岩手県、ひいては日本農業における希望であり、我々の期待であると思った。我々県議会議員もいただいた御意見を受けとめて、全力でサポートするのみである。

皆様のさらなる御成長と御躍動を御祈念する。頑張っていたきたい。いただいた御意見は議員全員で共有していくし、各方面へ働きかけていく。

これで意見交換会を終了する。ありがとうございました。